



子育てチャンネル

自転車恐怖症になってしまった(?) 息子

私は高校1年と小学校5年生の男の子がいます。高1の兄は、自転車で登校していた6月のある日、登校途中に自転車同士の友人と双方ぶつかりけがをしました。

現場を目撃した東川中学校の先生が息子の様子を見て、病院に行ったほうがいいこと、自転車は近くの駐在所で警察官が預かってくれること、自宅まで送るので待っていること、友人は擦り傷程度なので学校へ登校するように言った、という連絡内容を伝える電話をくれました。

その日は仕事を休めない日でした。「こんな日に限って…」でも息子も大事だ、どんな傷なんだろう」と息子の顔が目に見えかびます。

職場に電話して出勤が遅れることを伝え、玄関で待っていました。帰って来た

息子は、くちびるが腫(は)れて、手も血だらけでしたが、幸いにも頭は打つてないとのことでした。町立診療所で診察を受けて、「学校に行ける」と言う息子を祖母が学校まで送ってくれることになり、帰りは迎えに行く約束をして、職場に急ぎました。

仕事が終わり、迎えに行くこと、朝よりくちびるが腫れて、痛々しい顔になっていました。自転車を取りに駐在所へ寄ると、警察官から「事情を聞かせてくれ」と駐在所の中へ入るよう言われました。「ぶつかった友人が車道側に倒れたら大変だったぞ」と…。私も息子からぶつかった時の様子を聞いて



た時に同じ事を考えていました。

そして「1日1件は必ずと言っていいほど自転車の事故が起きているんだよ。命を落としかねない事故だ。彼も君も命は一つしかないんだ。自転車に乗る時は十分気をつけてな」。

その言葉に胸がジーンと熱くなりまわりました。家に帰り、遅い夕食の時に息子が「前歯が痛くて食べられない」と言い出しました。口の中をのぞくと、歯茎がボンボンに腫れているではありませんか。すぐ町内の歯医者さんに電話を掛けて診察してもらいました。「ああ、大変だったね。でも悪いこの後には

いいことあるさ、彼女ができるとか」。化膿止め、痛み止めをもらい家に帰りました。「痛み止めがないと眠れなかっただろうなあ」と思い、涙が出てしまいました。

出来事には、必ず意味があるとあります。思い返すと、最近の私は、仕事と毎日のお弁当作りなど、春から大きく生活が変わり、子供たちに目が向いてなかったんだな、と反省しました。弟もお兄ちゃんの絆創膏交換を毎日手伝っていました。心配だったのだと思います。

その後息子は歯も良くなりましたが、自転車恐怖症になったのかバス通学を続けています。自転車通学になった時、本当の治癒(ちゆ)といえるのかもありません。

幼児センター看護師

藤田 あゆみ